

ろう学校にきてかわった私

横須賀市立ろう学校中学部 二年 下 谷 恵里香

私は、生まれつき、耳が聞こえにくいです。

でも女の人の声は大体聞こえます。

小学六年までは、家の近くの小学校に通っていました。小学校では友達が少なく担任の先生もとても気づかってくれましたが、男子や男の先生の声が聞こえにくく、いつもひっこみじあんでした。勉強もわからない時が多く、みんなのいる前ではなかなか質問などもしにくいので、そのままになってしまいました。

小学五年生の時に、先生や両親のすすめで「ことばの教室」に通うことになり、その教室がろう学校の中になりました。

初めて行った時は、全く知らない先生とお話と勉強と遊びをして、なんだかがんばって笑顔を作って会っていただけのような気がします。

でも、何度も通ううちに、だんだん慣れてきました。中学部の先輩方に会ったら、とても楽しかったです。

小学六年生の体験入学の時、先輩方と音楽の授業をやりましたけど、私は慣れなくてドキドキしました。みんなも聞こえないのにどうやるのかな？と思ったら、たいこを全員で叩き、リズムを合わせる授業でした。

その時音楽のS先生から、私の私服を見て「あなたが、着ているのスカート？ズボン？どっちなの？」と質問されました。聞きとりにくかったけど口の動きをよく読んでから「スカートですけど。短いズボンも下にはいています。いつも私はズボンでないとダメなんです。」ときちんと答えることができました。

それから、図工も教わりました。中三の男子の先輩と一緒に、スラ描いているのに、私は、何を描こうか迷ってしまつて、自分は不器用だなあと思いました。

その日は、その先輩の卒業アルバム用に、全員の集合写真の撮影があつたのですが、なぜだか私も参加してしまいました。まだこの学校に入学してないのに、みんなに喜んで迎えられたような気持ちになりました。

私よりも、全然聞こえない先輩もいるし、おもしろい先輩もいるし、お母さんと一緒の小さな後輩たちもいる。本当はみんな一人ひ

とり悩みはあるんだろうなあ。それでもこの学校でがんばっているんだなあ。とそう考えて、私もこの学校に入学することに決めました。一番の決め手は、先輩たちと話せること。高等部の女子の先輩は、本当のお姉さんのように、優しくしてくれました。

中学のS先輩は、手話がとても上手で不思議なおもしろさがあります。この学校の生徒は、口話・手話・サイン・指文字・読話などいろいろな方法を使ってコミュニケーションができます。私もこの方法を知ってから苦手だった男子や男の人の声が聞こえなくても、話せるようになりました。話せるようになったら、誰とでも遊んだり冗談を言ったり学校がすごくおもしろくなりました。今まで感じたこともなかったのに、学校がおもしろくなったら、勉強がまあまあわかるようになり、楽しくなってきました。

特に、理科と社会が好きになりました。英語は今まで、みんなの前でまちがえたら恥ずかしいと思って一度も聞きかえせなかったけど、今はどんどん質問しています。国語は、「ノートに書く字や文章がどんどんよくなってきているね。」とほめられています。

この学校にきてから、自分から進んで勉強できるので、納得できるし達成感ができました。

まだまだ充分ではないこともあるし、この学校を卒業するまでに何でもわかるようになりたいです。

他の中学校でいろいろな人とコミュニケーションをするのも大切だけど、社会に出た時に困らないように、ろう学校でしっかり勉強しておくことが必要だと思います。

世の中の人が自分のことだけを考えるのではなく、私たちのような聞こえない人やいろいろな障害のある人の気持ちは理解できるようになってもらうためにはどうしたらいいのかな。まず自分からはじめてみようと思いました。

これからは私もいろいろな人の気持ちを理解できる人に、そして、社会に出ても人を助けてあげられる人になりたいと考えています。